

公益社団法人日本薬剤学会 2013 年度事業計画

(2013 年 4 月 1 日から 2014 年 3 月 31 日まで)

はじめに

1985 年に任意団体として設立された本学会は、2006 年に文部科学大臣より社団法人としての設立認可を、2012 年には内閣総理大臣より公益社団法人としての移行認定を受けた。本学会の事業は定款に定める以下の各事業を総称して「薬剤学及び関連諸領域に関する情報提供及び啓発，研究の振興，調査研究並びに評価により，薬剤学の進歩とその成果の利用普及を図る事業」として認定を受けており，理事会は別紙に詳述するこれらの事業を，公益法人としてのガバナンス体制の下に実施する。

- (1) 学術集会，研修会，講習会等の開催
- (2) 機関誌，学術雑誌，その他出版物の刊行
- (3) 研究の奨励及び研究業績の表彰
- (4) 国内外の関連学協会等との連絡及び協力
- (5) 研究及び調査
- (6) 薬剤学に関する学識及び技術等の認定
- (7) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

基本方針

- 1 日本の薬剤学に関するサイエンスレベルの向上を図るとともに、新規医薬品の開発および医療現場における医薬品の適正使用への取り組みを推進する。
- 2 医学・工学をはじめとする関連諸領域との連携をより緊密なものとし、学際的な研究協力を推進することによって、製剤・DDS 等における新しい技術開発に積極的に参画する。
- 3 産官学一体となった活動を通じ、医薬品の有効性と安全性を担保するための規制上の問題に関して公益な立場から提言を行う。
- 4 薬剤師の職能の向上を目指して、国際標準的な医薬分業を推進する。
- 5 学会活動の国際化を目指して、International Pharmaceutical Federation (国際薬学連合) などの国際学会および他国の薬剤学関連の学会との協力体制を構築する。
- 6 薬剤学の知識・技術を基盤として、機能的食品や化粧品などの開発、適正使用への取り組みを支援する。
- 7 2010 年度より発足した製剤技師認定制度の社会的認知度を向上させるとともに、各企業への製剤技術の普及・伝承に注力する。
- 8 共通の研究目的等による分野横断的なユニットであるフォーカスグループによる活動を強化する。

公益目的事業 1「薬剤学及び関連諸領域に関する情報提供及び啓発，研究の振興，調査研究並びに評価により，薬剤学の進歩とその成果の利用普及を図る事業」

会長

1 ステアリング WG 事業（仮称）

理事会主導により，日本薬剤学会のこれからのあり方“APSTJ 2025”の検討・策定を行う。

2 マスタープラン WG 事業（仮称）

日本学術会議が大規模研究のために策定しているマスタープランに対する提案のための検討を行う。

副会長総務担当理事

1 学会賞等表彰事業

- 学会賞選考委員会
- タケル&アヤ・ヒグチ記念各賞選考委員会
- 永井記念国際女性科学者賞選考委員会

1.1 学会賞

薬剤学，製剤学，製剤技術並びに医療薬剤学の発展に関し卓抜した業績を有する者を表彰する。

1.2 功績賞

本学会の運営・発展への貢献，薬剤学教育への貢献，薬剤学，製剤学，製剤技術並びに医療薬剤学の振興への貢献を行った者を表彰する。

1.3 奨励賞

薬剤学，製剤学，製剤技術並びに医療薬剤学の基礎及び応用に関し，独創的な研究業績を挙げつつあり，これらの分野の将来を担うことが期待される若手研究者を表彰する。

1.4 タケル&アヤ・ヒグチ記念荣誉講演賞（西暦偶数年度に実施）

故タケル・ヒグチ教授の薬剤学・製剤学分野における学問上，教育上，医療上並びに医薬品工業上の発展に対する偉大な功績ならびに故アヤ夫人の功を記念し，同記念荣誉講演の講師を表彰する。

1.5 タケル&アヤ・ヒグチ記念賞（西暦奇数年度に実施）

薬剤学・製剤学分野における学問上，教育上，医療上，医薬品工業上の発展に顕著な功績を挙げ，受賞を励みにして更なる活躍が期待される者を表彰する。

1.6 永井記念国際女性科学者賞

薬剤学領域において顕著な業績を挙げ将来も顕著な業績を上げることが期待される，国内外の現職の女性科学者を表彰する。

1.7 創剤特別賞

国際的に特に顕著な評価を受けた有形・無形の創剤を創成した者を臨時に表彰する。

1.8 優秀論文賞（西暦奇数年度に実施）

機関誌「薬剤学」および公式英文誌"Journal of Drug Delivery Science & Technology"に掲載された優秀な論文の著者を表彰する。

1.9 製剤の達人称号

医薬品製剤技術の研究開発に長年にわたり従事し，高い技術を確立した者を表彰する。

1.10 国際フェロー称号

薬剤学関連領域で国際的に特に顕著な業績を上げた会員，本学会の国際賞を受賞した外国人研究者等を表彰する。

1.11 「薬と健康の週間」懸賞論文

「薬と健康の週間」への協賛として，薬学を学んでいる若い学生を対象に与えられたテーマについての論文を広く募集し，優秀な論文の著者を表彰する。

2 創剤開発・研究賞表彰事業

- 旭化成各賞選考委員会

2.1 旭化成創剤開発技術賞

国際的な製剤の品質に関する考え方の変貌に応える製剤・創剤開発の基礎及び応用に関するハード及びソフトの優れた研究を対象として表彰する。

2.2 旭化成創剤研究奨励賞

製剤の機能化，最適な投与方法とそれに合った剤形開発，製剤の処方研究によって目標とする新規製剤の開発に顕著に貢献した者を対象として表彰する。

渉外担当理事

1 学生主催シンポジウム事業

- SNPEE 実行委員会

薬剤学に関わる学生の研究室・大学間を超えた活発な交流と，口演能力や講演会運営経験を涵養することを趣旨として，年会において学生主催シンポジウム「SNPEE*」を開催する。SNPEEでは，未来の薬剤学発展を担う学生相互の深い理解と調和が，やがては創薬の革新を生み出す原動力になると捉え，“自らを顧み，自らを伝える”ことを根本のテーマとする。演者の学生には，自身の研究を広い視点に立って今一度顧み，その魅力を聴衆に十分に伝えるチャンスとして，この場を提供する。特別講演の先生をお招きし，本シンポジウムの講評と将来の薬剤学を担う若手研究者に向けてのメッセージをいただく。

*SNPEE: Student Network for Pharmaceutical Education and Evolution

2 広報委員会事業

学会ウェブサイトの企画運営等を通して本学会の活動の広報を行うとともに，会員の拡大のために関連諸領域の研究者への本学会のアピールを図る

公益社団法人化に伴う，ロゴの改訂，HP改訂，学会誌表紙デザインの改訂を企画，実行する。

3 医薬品の包装と情報分科会事業

薬剤学を支える包装・情報に関し，専門の研究者・技術者が協議し，本学会会員に情報発信を行うことを目的に，年会において「医薬品包装シンポジウム」（「創薬への貢献を目指して ～医薬品メーカー技術者による包装設計事例～」仮題）を開催する。

分科会単独セミナー「医薬品包装の進歩（仮題）」を企画実行する。

4 教育分科会事業

薬剤学に関わる教育問題について，専門委員が協議して提言を行う他，教育資料の企画，年会における「薬学教育シンポジウム」（「薬学教育の国際化（仮題）」）を企画実行する。

国際連携担当理事

1 英語セミナー事業

- 英語セミナー委員会（東日本）
- 英語セミナー委員会（西日本）

国際共通言語である英語での討議能力を養うため、訪日した海外研究者等を講師として招聘し、講義・ディスカッションの全てを英語で行う Global Education Seminar を東西地区で企画する。

2 国際学会等協力事業

- FIP（国際薬学連合）

FIP の Predominantly Scientific Member Organization として、Council Meeting で重要事項を審議する他、Section/SIG にメンバーを多数派遣する等、BPS の諸活動に積極的に参画する。

- AFPS（アジア薬科学連合）

AFPS の Member Organization として、Executive Committee に役員を派遣する等、アジア地域における薬科学研究の発展に寄与する。

- 第5回アジア・アーデン・カンファレンス

2013年8月5日－6日 会場：愛知学院大学 楠元キャンパス

テーマ：「Pharmaceutical Materials Science and Engineering -Characterization and Application」

中国、韓国に次いで日本で初めて開催されるアジアでのアーデン・カンファレンスだが、尾関組織委員長の下、製剤を中心課題として、DDS に必須なナノデバイス、製剤技術・製造プロセスや機能性材料、薬学・工学の連携などのトピックスを企画している。

機関誌担当理事

1 「薬剤学」編集委員会事業

「薬剤学」誌の企画編集と「薬と健康の週間」懸賞論文の選考を行う。

2 投稿論文審査委員会事業

「薬剤学」誌への投稿論文の審査と、優秀論文賞の選考を行う。

3 学会誌出版事業

3.1 機関誌「薬剤学」

「薬剤学」編集委員会の担当する依頼原稿と投稿論文審査委員会の審査による一般論文で構成される「薬剤学」誌を以下のとおり発行する。今期は英文論文の投稿促進を図る。

Vol. 73 No. 3 2013年5月1日発行

Vol. 73 No. 4 2013年7月1日発行

Vol. 73 No. 5 2013年9月1日発行

Vol. 73 No. 6 2013年11月1日発行

Vol. 74 No. 1 2014年1月1日発行

Vol. 74 No. 2 2014年3月1日発行

英文論文については、英文論文を受け付けることが可能であることから、積極的に投稿促進を図る。

3.2 公式欧文誌「Journal of Drug Delivery Science and Technology」

JDDST の国内購読者は僅少であり薬剤学会の公式英文誌とは言い難い状況にあるため、理事会に

て改善策を検討中.

書籍担当理事

1 出版委員会事業

本学会の事業に関連する書籍の企画編集を行う.

1.1 製剤技術伝承講習会記念出版「製剤技術の伝承シリーズ」

ほぼ編集が終了し、2013年上期出版予定である.

1.2 「薬剤学実験必携マニュアル」

原稿を編集委員が査読中、統一編集作業を経て2013年末頃までに初版本の校正、2014年上期(3月頃)に出版予定である.

1.3 「薬剤学概史(仮題)」

次期編集企画として今年度からは2015年の日本薬剤学会第30年会に合わせて「薬剤学概史(仮題)」の記念誌編纂にあたる. 近年の日本における薬剤学の発展を概説したものを目指すもので、併せて年会、製剤セミナーなどの足跡の記録ともなり得る.

技術担当理事

1 製剤技術伝承講習会事業

- 製剤技術伝承委員会

製薬企業各社でのアウトソーシングの加速により、滅失が懸念されているわが国の製剤技術を次代の製剤研究者・技術者に継承するため、座学・実習の講習会を企画運営する. 今期の開催予定は次のとおり.

1.1 第13回シミック製剤技術アカデミー／製剤技術伝承講習会

「固形製剤の製剤設計と製造法」

2013年6月20日-7月26日

名城大学名駅サテライト

1.2 第5回製剤技術伝承実習講習会

「PATに関する実習講習会-NIRとテラヘルツ分光の基礎-」

2013年9月5-6日

東邦大学

1.3 第6回製剤技術伝承実習講習会

「口腔内崩壊錠を製造して評価しよう -2-」

2013年9月26-27日

フロイント産業(株)技術開発研究所

1.4 第14回シミック製剤技術アカデミー／製剤技術伝承講習会

「非経口製剤の製剤設計と製造法」

2014年1-2月を予定

会場未定

2 製剤技師認定事業

- 製剤技師認定委員会

医薬品メーカー等において製剤に携わる研究・開発・製造担当で、日常業務の遂行上必要とされる共通の基礎的かつ専門的事項及び法規・制度の学識を修得している者を「製剤技師」として認定する. 今期は本認定試験の社会的な認知度とステータスの向上を図るため、様々な活動を展開する. 今期の開催予定は次のとおり.

2.1 第4回製剤技師認定試験

2013年10月26日

慶應義塾大学芝共立キャンパス／神戸薬科大学

製剤セミナー担当理事

1 製剤セミナー事業

- 製剤セミナー実行委員会

大学・製薬企業・医療機関などにおいて製剤技術に関わる研究者が一堂に集い、サイエンスとテクノロジーの観点のみならず刻々と変化する時代のニーズも合わせて議論する合宿形式の討論会「製剤セミナー」の企画運営を行う。

1.1 第38回製剤セミナー

「新薬開発のドライビングフォースとなる創剤—公益社団法人日本薬剤学会の役割—」

2013年7月18-19日

ヤマハリゾートつま恋

国際標準医薬分業推進事業担当理事

1 国際標準医薬分業推進事業

- 国際標準医薬分業に関する委員会

国際標準的な医薬分業（完全分業あるいは強制分業）への移行について、必要な情報を整理しつつ、実施に向けての戦略を立案し、関連団体と連携しながら行政への働きかけを推進する。今期は9月25日のWorld Pharmacists Dayに合わせて、国内外の講師を招聘しての公開市民講演会を開催する予定。

FG担当理事（特命担当理事）

1 FG統括委員会事業

共通の研究目的等による分野横断的なユニットである各フォーカスグループ（FG）を統括する委員会として、事業・予算の管理を行い、各FGに対する助言やFG・理事会間のリエゾンを担当する。

- 経口吸収FG

経口吸収に関わる生体膜機能、吸収機構、体内動態、製剤化や臨床開発に至るまでの幅広い問題を統合し、新たな経口吸収研究を開拓する。今期は8月に合宿討論会を予定。

- がん治療FG

抗がん剤の製剤的工夫に基づく新規治療法・治療技術に関する情報発信に努める。臨床薬剤師を対象とした活動にウェイトを置きたい。今期は医療薬学会でのシンポジウム開催を予定。

- 経皮投与製剤FG

様々な分野の研究者を集め、経皮投与製剤の理論と実際を検討し、経皮投与製剤研究のさらなる活性化を図る。毎年開催しているシンポジウムを11月に単独または他FGとの合同シンポジウムとして開催予定。

- 経肺投与製剤FG

大学・企業の製剤研究者、投与デバイス開発者、医療従事者の連携を図り、患者及び医療従事者にとって使いやすい経肺投与製剤及び吸入療法の開発を目指す。2013年度はFGメンバーのニーズ調査を行い、テーマを絞って活動を進める予定である。

- 院内製剤・調剤 FG
医療サイドからの臨床情報を発信するとともに、大学・製薬企業から院内製剤などへの技術指導を行い、市販化に向けた共同研究への展開を視野にした議論の場を提供する。
- 遺伝子・細胞製剤 FG
遺伝子・細胞製剤に関連する極めて学際的な領域の情報交換のプラットフォームとして、関連諸領域と最新の知見を共有する。今期も核酸医薬、遺伝子治療、細胞移植治療などに関する最新情報の交換を行う予定。
- 薬物相互作用 FG
ICH 各地域の薬物相互作用ガイダンスの改訂を踏まえ、最新予測技術との対応、医薬品開発への浸透・応用に関する情報を収集し、トランスレーショナルなステージおよび臨床での薬物相互作用の予測のための基盤の確立を目指す。2012 年度に臨床薬理学会との共催シンポジウムを開催したが、本年度も昨年同様共催を検討する。また、臨床薬理学会以外の学会とのコラボレーションの可能性についても検討する。
- 医療 ZD と調剤 FG
薬剤師が医師処方箋のレビューを含めた真の調剤を実践し、そのリスク管理により医療における Zero Defect が達成されるよう、医薬分立を基盤としたシステム・教育の構築を目指す。
- DDS 製剤臨床応用 FG
DDS 製剤の品質、有効性、安全性の評価、あるいは評価手法に関する調査研究、情報交換等により DDS 製剤の開発環境の向上を図り、臨床応用の実現のための橋渡し研究を推進する。
- PVM 推進 FG
一つの薬理活性物質に対して各研究機関（新薬メーカー、ジェネリックメーカー、アカデミア等）が多様な技術を活用して、新製品を開発する検討を行う環境の向上を図り、製剤技術を駆使した患者志向性の高い新製品開発を行うための活動を行う。

年会長

1 年会事業

- 年会組織委員会

本学会最大の学術集会「年会」の企画運営を行う。年会では、口頭またはポスターによる研究発表、特別講演、各種受賞講演、各種シンポジウム、ランチョンセミナー、企業展示会の他、一般市民を対象とした公開市民講演会等の多種多様なプログラムを設けており、定時総会もこの会期中に併催される。また、昨年引き続きラウンドテーブルセッション形式での討論を行う。今期の開催予定は次のとおり。

1.1 第 28 年会

「薬剤学，健康への貢献」

2013 年 5 月 23-25 日

愛知県産業労働センター（WINC あいち）

1.2 2013 年度公開市民講演会

「セルフメディケーションの将来展望」

「予測の科学：IT 創薬と放射線の健康への影響」

2013 年 5 月 25 日

愛知県産業労働センター（WINC あいち）

学会運営

1 理事会

学会の業務執行の決定，理事の職務執行の監督等を行う機関であり，全ての理事で組織される．法人のガバナンスを担う中心的な機関である．今期の開催予定は以下のとおり．

第1回理事会	2013年4月頃
第2回理事会	2013年5月頃
第3回理事会	2013年9月頃
第4回理事会	2014年2月頃

2 評議員会および総会

総会は正会員で構成される，学会の最高の決議機関である．評議員会は総会に上程される全ての議案について審議を行う機関であり，評議員により組織される．今期の各開催予定は以下のとおり

2.1 評議員会 2013年5月24日	愛知県産業労働センター（WINC あいち）
2.2 定時総会 2013年5月24日	愛知県産業労働センター（WINC あいち）

以上

収支予算書(損益計算ベース)
2013年4月1日から2014年3月31日まで

公益社団法人日本薬剤学会

(単位:円)

科目	公1	法人会計	内部取引消去	合計
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
基本財産運用益	0	50,000	0	50,000
基本財産受取利息	0	50,000	0	50,000
特定資産運用益	0	0	0	0
特定資産受取利息	0	0	0	0
受取会費	11,030,000	11,030,000	0	22,060,000
正会員	6,150,000	6,150,000	0	12,300,000
学生会員	720,000	720,000	0	1,440,000
賛助会員	4,160,000	4,160,000	0	8,320,000
事業収益	69,535,000	0	0	69,535,000
学術集会・委員会等事業収益	64,665,000	0	0	64,665,000
参加費	35,815,000	0	0	35,815,000
助成金・補助金	2,050,000	0	0	2,050,000
寄付金・協賛金	8,750,000	0	0	8,750,000
セミナー共催金	4,800,000	0	0	4,800,000
講演要旨集等販売料	300,000	0	0	300,000
広告料	2,150,000	0	0	2,150,000
出展料	10,800,000	0	0	10,800,000
学会誌等出版事業収益	1,750,000	0	0	1,750,000
購読料	500,000	0	0	500,000
投稿料・別刷料	500,000	0	0	500,000
許諾料・使用料	300,000	0	0	300,000
広告料	450,000	0	0	450,000
学会賞等表彰事業収益	1,900,000	0	0	1,900,000
助成金・補助金	400,000	0	0	400,000
寄付金・協賛金	1,500,000	0	0	1,500,000
製剤技師認定事業収益	1,220,000	0	0	1,220,000
受験料	820,000	0	0	820,000
認定料	400,000	0	0	400,000
雑収益	0	0	0	0
雑収益	0	0	0	0
受取利息	0	0	0	0
経常収益計	80,565,000	11,080,000	0	91,645,000
(2) 経常費用				
事業費	87,853,087		0	87,853,087
給料手当	720,000		0	720,000
臨時雇入金	4,881,125		0	4,881,125
会場費	15,155,150		0	15,155,150
旅費交通費	6,148,000		0	6,148,000
会議費	5,103,400		0	5,103,400
関連行事費	7,720,000		0	7,720,000
賞状・賞牌・副賞費	3,400,500		0	3,400,500
通信運搬費	2,162,000		0	2,162,000
ウェブサイト管理費	1,010,000		0	1,010,000
消耗品費	1,082,380		0	1,082,380
印刷製本費	11,683,200		0	11,683,200
貸借料	1,500,000		0	1,500,000
保管料	200,000		0	200,000
諸謝金	7,235,015		0	7,235,015
租税公課	100,000		0	100,000
支払負担金	1,500,000		0	1,500,000
業務委託費	17,610,000		0	17,610,000
雑費	642,317		0	642,317
管理費		10,770,000	0	10,770,000
給料手当		720,000	0	720,000
旅費交通費		300,000	0	300,000
会議費		1,500,000	0	1,500,000
通信運搬費		1,200,000	0	1,200,000
消耗品費		200,000	0	200,000
減価償却費		100,000	0	100,000
印刷製本費		900,000	0	900,000
貸借料		300,000	0	300,000
租税公課		800,000	0	800,000
業務委託費		3,050,000	0	3,050,000
公認会計士報酬		1,200,000	0	1,200,000
雑費		500,000	0	500,000
経常費用計	87,853,087	10,770,000	0	98,623,087
当期経常増減額	-7,288,087	310,000	0	-6,978,087
当期一般正味財産増減額	-7,288,087	310,000	0	-6,978,087
一般正味財産期首残高	0	0	0	0
一般正味財産期末残高	-7,288,087	310,000	0	-6,978,087
II 指定正味財産増減の部				
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	20,000,000	0	20,000,000
指定正味財産期末残高	0	20,000,000	0	20,000,000
III 正味財産期末残高	-7,288,087	20,310,000	0	13,021,913